

- 7月の米消費者物価指数は前月比+0.2%との市場予想に反し、同横ばいとなった。前年同月比では+8.5%と、市場予想の同+8.7%を下回った。前月はおよそ41年ぶりの上昇率を記録していた。
- 10日に米金利はいったん低下したものの、その後は低下幅を縮める展開。7月のCPIの内容だけでFRBが利上げ幅を縮小するには至らない、との見方が米金利の動きの背景にあったと考えられる。

エネルギー低下が全体を押し下げ、食品は大幅上昇

10日に米労働省が発表した7月の米消費者物価指数(CPI)は、前月比+0.2%との市場予想(ブルームバーグ集計。以下、同じ)に反し、同横ばいとなりました。前月は同+1.3%と、2005年9月以来、およそ17年ぶりの高水準でした。

内訳をみると、ガソリンが大幅に低下するなど、エネルギーが全体を押し下げました。一方、食品は大幅に上昇したほか、全体のおよそ3分の1を占める居住費が全体を下支えするかたちとなりました。

CPIは前年同月比では+8.5%と、市場予想の同+8.7%を下回りました。前月は同+9.1%と、1981年11月以来、およそ41年ぶりの上昇率を記録していました。また、このうち、振れの大きい食品とエネルギーを除いたCPIコアは同+5.9%と、市場予想の同+6.1%を下回り、今年に入り最低の伸びだった前月と同水準でした。

当面、9月のFOMCでの利上げ幅を探ろうとするか

10日の米国市場では、CPIの伸びが市場予想を下回ったことを好感して主要株価指数が取引開始から大幅に上昇し、機関投資家などが参照するS&P500種指数は終値ベースで5月4日以来の水準を回復しました。

また、米政策金利であるフェデラルファンド(FF)金利の先物取引をもとにシカゴ・マーカンタイル取引所(CME)が算出する利上げの予想確率をみると、9月20-21日に開催される米連邦公開市場委員会(FOMC)で0.75ポイント利上げの予想確率が前日の68%から42%へ低下したのに対し、0.50ポイントの予想確率は32%から58%へ上昇しました。

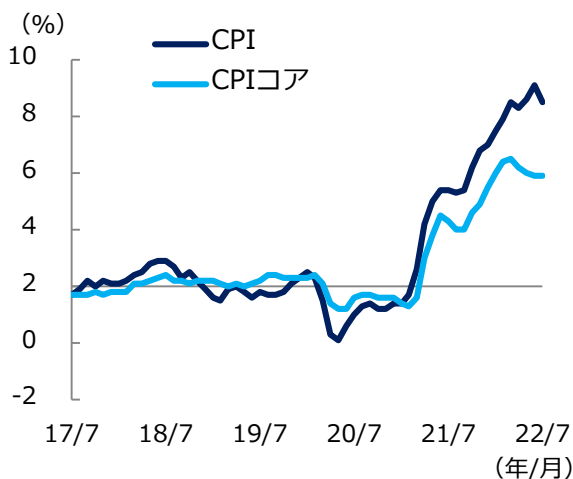
一方、米金利はCPI発表後にいったん低下したものの、その後は低下幅を縮める展開となり、10年国債利回りは2.78%台と、前日とほぼ同水準で取引を終了しました。さらに11日には2.88%台へ上昇しました。7月のCPIの内容だけで米連邦準備理事会(FRB)が利上げ幅を縮小するには至らない、との見方が米金利の動きの背景にあったと考えられます。

8月25-27日にカンザスシティ連銀が主催する米ジャクソン・ホールの経済シンポジウムでは、例年通りパウエルFRB議長の講演が行われると予想され、当面、9月のFOMCでの利上げ幅を探ろうとする市場の動きが続きそうです。

※上記は過去の情報および作成時点での見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。

米CPIの推移



※期間：2017年7月～2022年7月(月次)
前年同月比、季節調整前

米国株・米金利の推移



※期間：2021年8月11日～2022年8月11日(日次)

出所：ブルームバーグのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.85%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.09%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※ 手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※ 上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。

費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※ 投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※ 税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。
- 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。
- 投資信託は、
 1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
 2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。
 3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。

【指数の著作権等】

- S&P500種指数は、S&Pダウ・ジョーンズ・インデックスLLCまたはその関連会社の商品であり、これを利用するライセンスが委託会社に付与されています。S&Pダウ・ジョーンズ・インデックスLLC、ダウ・ジョーンズ・トレードマーク・ホールディングスLLCまたはその関連会社は、いかなる指数の資産クラスまたは市場セクターを正確に代表する能力に関して、明示または黙示を問わずいかなる表明または保証もしません。また、S&P500種指数のいかなる過誤、遺漏、または中断に対しても一切責任を負いません。